

# 第6回全国書写書道伝統文化大会実施要項



平成29年度 第6回全国書写書道伝統文化大会要項

主催 一般社団法人日本書字文化協会

公益財団法人文字・活字文化推進機構

後援 文部科学省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会

全国高等学校長協会、全日本書写書道教育研究会

応募締め切り 平成30年1月19日(金)必着

★平成29年度全国年賀はがきコンクール★

★平成29年度学生書き初め展覧会★

## 特色1 指定課題、参考手本があります

両コンクールとも指定課題があり、課題一覧があります。

揮毫者は毛筆、硬筆ともに「用美一体を究めた平明な書風」と評価される大平恵理（書文協会長）です。全国年賀はがきコンクールは、硬筆のみとし、課題も指定課題だけとします。学生書き初め展覧会は、毛筆のみとし、課題は指定課題と自由課題があります。

## 特色2 「評価の観点」が発表されます

書文協では、「止め、はね、払い」など文字を書く上で身に付けて欲しいルールを50項目の「評価の観点」に分けました。検定試験ではこれが守られているか、順を追ってチェックしています。大会では指定課題に沿ってこの観点をワンポイントで明示した「評価の観点」書を11月初め、ホームページで公表します（3ページにサンプルを掲載）。手本の上に書き込まれており一目瞭然の手引書となっています。審査ではどこがチェックされるのかを明示するものでもあり、大会参加が書の具体的学びに直結します。個人応募者はもちろん、各教室でも大会応募の補助資料となるでしょう。

## 特色3 全国規模の腕試し・・・権威ある審査委員が厳正に

大会の命は審査です。書文協中央審査委員には書写書道教育の権威者がそろっています。流派を超えた公正な審査が行われます。

## 特色4 園・学校・地教委顕彰の充実

学校教育で基礎を教え込まれた児童・生徒が書写書道を生涯学習とする受け皿の一つになることを目標としています。このため、書塾を大切にするのはも

ちろん学習指導要領準拠、学校教育の下支えは書文協の大事な理念です。優秀作品については出品者の園・学校あてに連絡、また地元の教育委員会に連絡します。校長先生のお話など、何らかの形で受賞者が顕彰されることを願っています。

## 特色5 園・学校応募に特典

幼稚園・保育園、学校単位で応募される場合、優遇措置を取っています。大会参加者一人につき、参考手本、年賀はがき応募用紙（書文協作成）2枚を無料提供しています。年賀はがきは日本郵便はがきでも応募できますが、材質を統一して書きぶりに差が出ないようにするため応募用紙を作成しています。送料はご負担ください。参加予定申込書で申し込めます。

### 1、主催・後援

主催 一般社団法人日本書字文化協会  
公益法人文字・活字文化推進機構

後援 （いずれも予定）

文部科学省 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全日本書写書道教育研究会（全書研）

### 2、応募締め切り・審査結果発表

平成30年1月19日（金）必着、同2月末審査結果発表

### 3、作品送付・連絡先（12月1日以降）

書文協本部（大会事務局）は平成29年12月から、下記に移転します。  
〒164-0001 東京都中野区中野2-11-6 丸由ビル3階  
電話などは変わらず

### 4、優秀作品冊子発表（ホームページも）、学校・地教委への顕彰依頼

冊子発表：平成30年3月4日（日）

これに先立ち、優秀作品について応募者の在籍校、地方教育委員会に顕彰依頼の連絡を行います。

### 5、大会役員

大会顧問

鈴木 勲 公益社団法人日本弘道会会長（元文化庁長官）

野口 芳宏 植草学園大学名誉教授

大会会長

大平 恵理 一般社団法人日本書字文化協会代表理事・会長  
大会副会長

肥田 美代子 公益財団法人文字・活字文化推進機構理事長  
運営委員長

渡邊 啓子 一般社団法人日本書字文化協会副会長・事務局長

## 6、事前参加登録制

参加予定申込書にて事前参加申し込みをしてください。出品券が発行されます。これを書き初めは出品票、年賀はがきは応募用はがき用紙の所定の欄に貼って出品してください。日本郵便はがきを使用する場合は、応募用はがきの所定の位置に貼ります。出品票は作品にべったりとはらず、作品からはれない程度でOKです。出品目録は不要です。出品券のお名前の字体が賞状の名前印字の基となります。ご確認ください。字体は、希望に添えない場合があります。

## 7、出品規定

部門の課題ごとに参加でき、成績が決定されます

個別大会名	対象	部門 【課題※1】		点数	用紙 (縦長使用)	署名
		硬筆	指定			
全国年賀はがき コンクール	幼児 ～ 一般	硬筆	指定	1点	清書用紙または、 はがき	<b>【幼児】</b> 氏名（名前だけでもよい）  <b>【小学生～中学生】</b> 学年・氏名を小四、中二 のように書く。漢数字使用。  <b>【高校～一般】</b> 作品に応じて署名。 雅印のみは不可。
学生書き初め 展覧会	幼児 ～ 大学	毛筆	指定	1点	幼～小2 半紙 小3～中3 八ッ切 高・大 半切	
			自由	3点	半紙 八ッ切 半切	

## 8、手続き書類のダウンロード

手続き書類には＜事前参加申し込み表＞＜団体参加（予定）申込書＞  
＜応募総括用紙＞＜応募明細用紙出品票＞があり、説明文書として＜前参

加登録制について>がそれぞれ書文協ホームページに平成 29 年 10 月中旬までにアップされる予定です。書文協ホームページのフロントページにある横タスクバーの右から 2 つ目の「大会」にカーソルを当てると、各項目がスクロールされます。そのうち伝統分化大会をクリックし、大会実施要項の最後に必要用紙のダウンロードコーナーがあります。現物をご希望の方は書文協本部に請求してください。

## 9、参考手本、年賀はがき清書用紙の発売

参考手本は書き初め（毛筆、A3 に縮小）は 1 枚 100 円、年賀はがきコンクール応募用紙（硬筆実寸大）は 1 枚 30 円で販売します。上記参加予定申込書にてご請求下さい。手本は評価の観点とともにホームページで公開されます。園・学校応募には無料特典があります。

## 10、出品料（消費税 8%込み）

個別大会名	部門	団体出品・出品料		個人出品料
年賀はがき コンクール	硬筆 指定課題の部	幼・小・中	428 円	1,296 円 (学年に関わらず)
		高・大・一般	732 円	
学生書き初め 展覧会	毛筆 指定課題の部 自由課題の部	幼・小・中	540 円	
		高・大	907 円	

※ 団体が応募する場合、出品料の支払い合計が 3,000 円に満たない場合は、1,000 円をプラスしてください。例えば、年賀はがき中学以下 5 点 2,140 円、学生書き初め展の中学以下 1 点 540 円、合計 2,680 円の場合、総額は+1,000 円で 3,680 円となります。手数料、送料の一部とするものです。

個人応募の方も<参加予定申込書>にて、出品手続き用書類、参考手本、年賀はがきコンクール清書用紙をご請求ください。

## 振込先

名義 一般社団法人日本書字文化協会

記号 00130-1-728113

## 11、個人出品

個人応募は手本、硬筆共通清書用紙も含め個人セットを求めて、お申し込みください。セットは切手 300 円分を同封して事務局に申し込んでください。個人セットには清書用紙 10 枚とお手本が含まれます。

## 12、賞

各コンクール共通（予定も含む）

＜特別賞＞

文部科学大臣賞▶大賞▶中央審査委員会賞▶日本書字文化協会会長賞、文字・活字文化推進機構理事長賞▶小・中・高校長会会長賞、全日本書写書道研究会会長賞▶中央審査委員長奨励賞▶日本書字文化協会賞、文字・活字文化推進機構賞▶全日本書写書道教育研究会賞▶教育特別奨励賞

＜本賞＞

優秀特選▶特選▶金賞▶銀賞▶銅賞

＜総合賞＞伝統文化大会は伝統文化大賞、総合大会は文字文化大賞  
グランプリは文部科学大臣賞

## 13、賞状印字

全ての参加者に賞状が出ます。出品者の氏名は事務局でコンピュータ印字することが可能です。希望の団体は応募時に 1 人 30 円分の印字代を添えてお申し込みください。

氏名は、大会参加申込書、または出品目録と同一になるため、正確に記入してください。書体はご希望に添えない場合もありますが、あらかじめご承知おきください。

## 14、表装、記念アルバム受付

書文協では書作品を飾り多くの人に見てもらおう作品化を奨励しています。このため毛筆作品は表装、硬筆作品はアルバム作成を受注しています。応募作品は原則として書文協に帰属しますが、作品化希望者は例外とするものです。表装には紙表装と本表装があります。記念アルバムは作品のほか賞状のレプリカ、本人の写真が貼られます。複数の作品化希望の場合は、2 冊目からは複写作品となります。アルバムにはアルバム立てが付きますので教場の作品展にも最適です。価格、応募締め切り日などは、結果発表の際にお知らせします。表装、アルバムは学びの足跡を残す記念ともなります。皆様ご応募ください。

## 15、中央審査委員会（平成 29 年度 9 月現在、日本書字文化協会）

### 顧問

蓮池 守一 全国連合小学校長会顧問（元全連小会長）  
小森 茂 前青山学院大学教授、元文部科学省教科調査官

### 委員長

加藤 東陽 東京学芸大学名誉教授（元文部科学省教科調査官）

### 副委員長

辻 眞智子 聖心女子大学・文教大学講師

### 委員

青山 浩之 横浜国立大学教授  
加藤 泰弘 文部科学省教科調査官、東京学芸大学教授  
柴田 五郎 元東京都小学校書写研究会会長  
長野 秀章 東京学芸大学名誉教授（元文部科学省教科調査官）  
西村 佐二 聖徳大学大学院教授（元全連小会長）  
宮澤 正明 山梨大学教授

## 16、大会事務局

### <平成 29 年 11 月 30 日まで>

一般社団法人日本書字文化協会本部 事務局  
〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3 階  
電話 03-6304-8212（10：00-17：30 月～土）  
FAX 03-6304-8213  
E-mail info@syobunkyo.org  
ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

### <平成 29 年 12 月 1 日以降>

〒164-0001 東京都中野区中野 2-11-6 丸由ビル 3 階  
電話等は変わらず

## 17、書類等のダウンロードはコチラ